

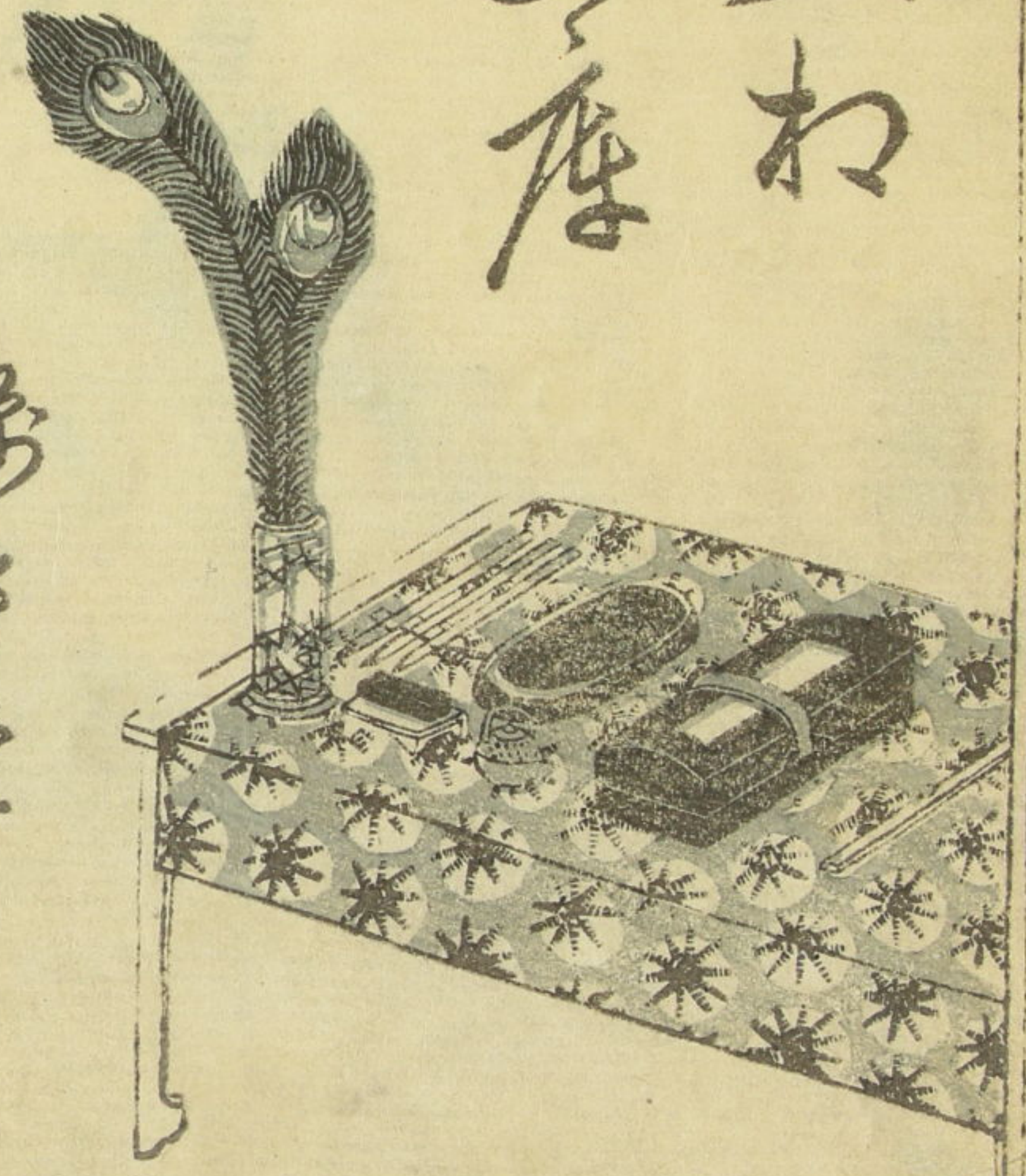
門へ13
 號3785
 卷2

釋迦ハお

佛の座

初編

下の巻



河津を

木の橋

一陽高き國重

全吹色

はるわと不初大長ハかのお人の
 ひめとめ、やうかびう、大長ハるり
 のちりて、まうせんく大長ハるり
 り、かまうく、とそ、うけんせん
 み、りて、まう、とそ、うけんせん
 ま、りて、まう、とそ、うけんせん
 う、りて、まう、とそ、うけんせん



善覚王 春内

月系殿ふらうのいこと

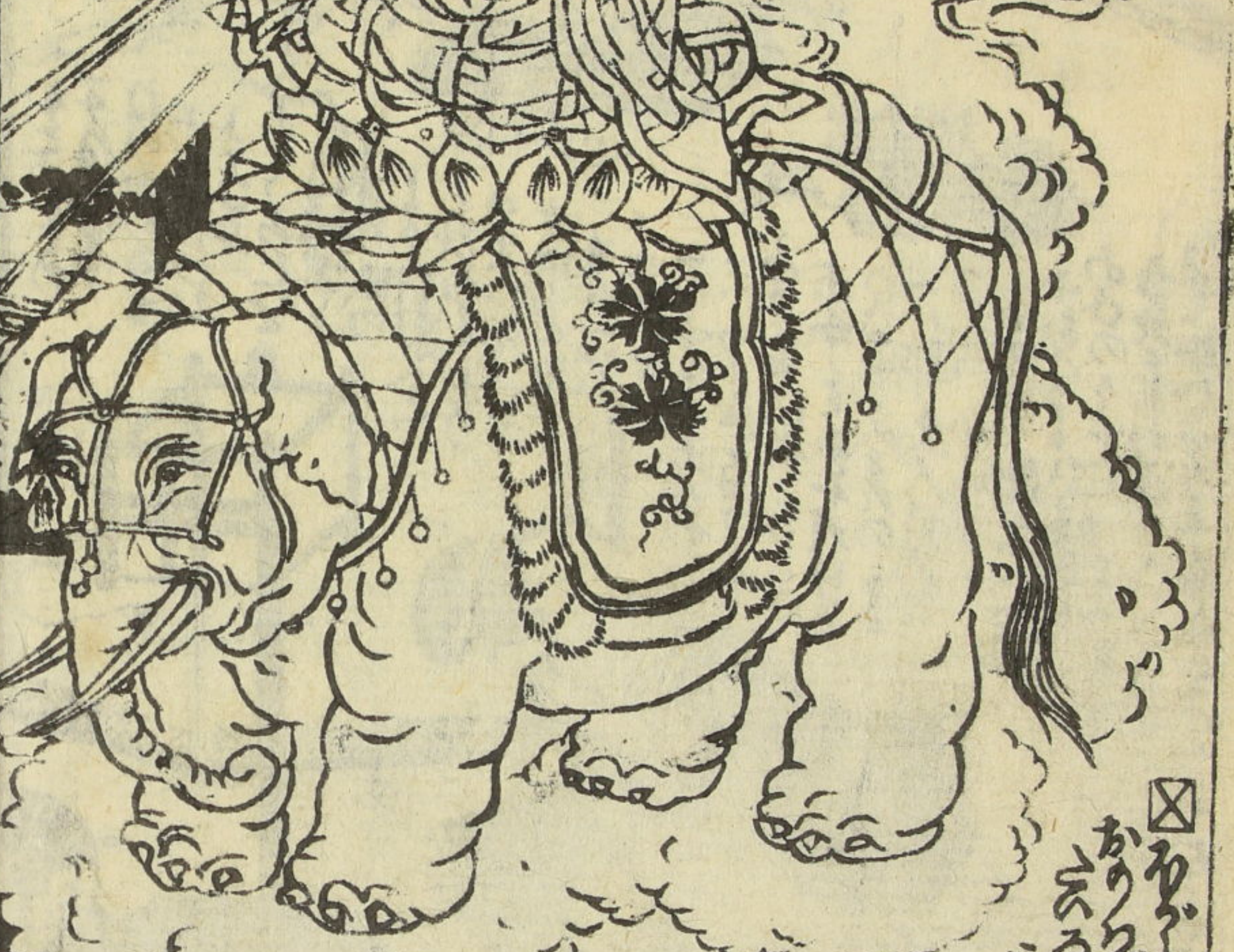
かいつい

月花の
 あらう、かいつい、
 君ふか、つき、
 あらう、かいつい、
 と、かいつい、
 あらう、かいつい、
 と、かいつい、

玉の影...
 せし...
 う...
 か...
 も...
 こ...
 せ...



玉の影...
 せし...
 う...
 か...
 も...
 こ...
 せ...



玉の影...
 せし...
 う...
 か...
 も...
 こ...
 せ...

山羅七



千をうけて二万が
そのもとから
三つとらげ
日月ころり
そのうち
みちを
今をきふ
酒や夫
人とうま
れ津元
大王と
まんと
かひの
るの
ふん
すん
それ
るが
たの
あ
と
と
け
ひ
り
と
ん

夫人

城羅那緊



つぎ
ひあ
くら
あつ
るり
この
きん
そろ
みや
その
つり
ひとり
ひと
その
ヨウ
けの
母の
そこの

摩耶夫人
前生

法沙衣王

コウヤ
女



乙女は...
 かくも...
 こゝろ...
 夫...

乙女は...
 かくも...
 こゝろ...



乙女は...
 かくも...
 こゝろ...

乙女は...

乙女は...

ありしがこのよ
 ちゆてゆや夫
 人のあまふはゆ
 のごさきとさけるど
 ぬりそれこそ
 るすうち夫人の
 おんやたけを
 とをめるがうお
 ちのしのかやう
 可おそれるがう
 ぬおんさまの
 ぬるるあま
 りうもゆて死
 王子のうらを
 やとがぬひ
 とけいさるり
 おそくや
 けれびみく
 ちまふらちあど
 ろささそんま
 めやとよあ
 こぶるうよま
 ぶしんあひ
 ありするけや
 目のおふち
 こまがた



これに後ま
 ちかきまの
 のとひと
 こみさ
 されバ
 うりさ月
 だんのま
 とんま
 ぬんま
 王の
 つけ人
 軍
 いらあ
 せんま
 いかに
 りあ
 ます
 けい
 た
 こま
 けい
 こま
 けい

ありしがこのよ
 ちゆてゆや夫
 人のあまふはゆ
 のごさきとさけるど
 ぬりそれこそ
 るすうち夫人の
 おんやたけを
 とをめるがうお
 ちのしのかやう
 可おそれるがう
 ぬおんさまの
 ぬるるあま
 りうもゆて死
 王子のうらを
 やとがぬひ
 とけいさるり
 おそくや
 けれびみく
 ちまふらちあど
 ろささそんま
 めやとよあ
 こぶるうよま
 ぶしんあひ
 ありするけや
 目のおふち
 こまがた



ありしがこのよ
 ちゆてゆや夫
 人のあまふはゆ
 のごさきとさけるど
 ぬりそれこそ
 るすうち夫人の
 おんやたけを
 とをめるがうお
 ちのしのかやう
 可おそれるがう
 ぬおんさまの
 ぬるるあま
 りうもゆて死
 王子のうらを
 やとがぬひ
 とけいさるり
 おそくや
 けれびみく
 ちまふらちあど
 ろささそんま
 めやとよあ
 こぶるうよま
 ぶしんあひ
 ありするけや
 目のおふち
 こまがた

ありしがこのよ
 ちゆてゆや夫
 人のあまふはゆ
 のごさきとさけるど
 ぬりそれこそ
 るすうち夫人の
 おんやたけを
 とをめるがうお
 ちのしのかやう
 可おそれるがう
 ぬおんさまの
 ぬるるあま
 りうもゆて死
 王子のうらを
 やとがぬひ
 とけいさるり
 おそくや
 けれびみく
 ちまふらちあど
 ろささそんま
 めやとよあ
 こぶるうよま
 ぶしんあひ
 ありするけや
 目のおふち
 こまがた

